

## 横浜市福祉サービス第三者評価 評価結果総括表

事業所名	鶴ヶ峰保育園
報告書作成日	2007年3月8日 (評価に要した期間4.5か月)
評価機関	社会福祉法人 横浜市社会福祉協議会 横浜生活あんしんセンター

### 評価方法

自己評価方法  (実施期間:2006年10月16日 ~2006年11月22日)	自己評価前に園長、主任、3歳未満児・3歳以上児責任保育士、責任栄養士で取り組み方などについて検討・協議し、その後パート職員や派遣職員を含めた全職員が自己評価を行い、とりまとめたものを最終的に園長による内容の把握・確認を経て、全体を集約した。
評価調査員による評価方法  (実施日:2007年1月10・15日)	評価調査員(2名)による現地視察、書類確認、面接ヒアリング調査(園長、主任、3歳未満児・3歳以上児責任保育士、栄養士など)を行った。
利用者家族アンケート実施方法  (実施期間:2006年11月2日 ~2006年11月20日)	全利用者62名の保護者(55世帯)を対象とし、事前に園長と評価機関(市社協横浜生活あんしんセンター)の連名でアンケート依頼文を連絡帳に挟み込み、園から手渡しで配布し、その後2~3日後に本アンケートを同様に園から手渡し、約3週間の回答期間を設け、匿名で直接評価機関に返送してもらった。
利用者本人調査方法  (実施日:2006年12月19日)	園児61名のうち、予め園側にリストアップを依頼した中から10名(園児の16.4%)を対象に評価調査員2名が保育観察(0~4歳児4名)、本人聴き取り調査(満5~6歳児6名)を行った。

## 評価結果についての講評

### 〔施設の特徴〕

- 鶴ヶ峰保育園は旭区の中央東寄りに位置し、相鉄線「鶴ヶ峰駅」から南西方角へ約 10 分ほど歩いた住宅街にあります。駅前には、H19 年中頃に完成予定の鶴ヶ峰駅南口再開発の高層(29 階建て)ビル、また、途中の道沿いには県営住宅などもあり、今後の保育需要の高まりが予想されます。鶴ヶ峰保育園の西隣には、横浜市が管理している通称「ジャングル山」があり、夏はカブトムシやクワガタの「宝庫」となり、自然環境にも恵まれています。
- 園内には子どもたちが土づくりから始めた 2ヶ所の畑があり、季節ごとの野菜を収穫しています。子どもたちは散歩の途中、地域にある家庭農園の方と作物の話をしたりしながら、生き物への親しみや関心を通して、責任感や自然の不思議さ、生命の大切さなどを学んでいます。基本方針にある「自然の中ででのびのびと身体を動かすことができるような保育」が着実に実現されています。
- 園長は日々、保育理念である「愛と思いやり」や指導項目である「子どもの目線で」、毎年度掲げるテーマ(H18 年度は「挑戦(チャレンジ)」)について、職員に熱く語っています。今年度のテーマ「挑戦」には、子どもたちが内に秘めた豊かな才能を育んでいこうというチャレンジ意欲の願いが込められており、園長自ら作詞作曲したテーマソングを各種行事の際に、子どもたちと一緒に職員も斉唱し、園全体が同じ方向(保育目標)に向かって進んでいる様子が見られます。
- 当該園は、横浜市が公立保育園の民間移管を行った初年度(H16 年)の 4 園中の 1 園であり、横浜市立鶴ヶ峰保育園が、社会福祉法人「ちとせ会」に経営移管されました。定員は 60 名で、朝 7 時から夜 21 時まで延長保育を行うなど、子育てニーズに柔軟に応えたサービス提供をしている保育園です。
- 園では、常に保育士の自主性を重んじています。主任や各 3 歳未満児・3 歳以上児クラスを統括する責任保育士は現場の保育士の自主性を尊重し、できるだけ任せるようにしています。各保育士の裁量に任せ、やらせてみた上でその後、「なぜ、そのようにしたのか」という振り返り(気づき)を現場で話し合いを持つようにしています。このような職場内の OJT(現場実践教育訓練)の積み重ねにより、職員一人ひとりが状況に応じて自主的に判断・行動できるように努め、ひいては子どもたちの自主性を育んでいこうという姿勢が貫かれています。

### 〔特に優れていると思われる点〕

#### ①毎年度掲げる保育テーマに基づき、保育の取り組み

- 園長(理事長)のリーダーシップの下、「愛と思いやり」の保育理念に基づいて、年度ごとに保育テーマを掲げ、保育理念がより実現できるよう職員が一丸となって取り組んでいます。今年度(H18 年度)の保育テーマ「挑戦(チャレンジ)」は、昨年度のテーマ「夢(ドリーム)」を実現しようという願いが込められています。
- この保育テーマは、子どもだけでなく職員全員の目標でもあり、交流保育として取り組み始めた 3~5 歳児クラスのソフトティーボール大会(ゴムボールをティーの上に置いて、バッティングする幼児向けの野球)〈県下 10 数園が加盟〉で、昨年度は初参加ながらも準優勝、今年度は並み居る強豪を抑えて優勝を勝ち取っています。園の正面玄関に飾られている優勝カップが物語るように、保育士と子どもたちが日々努力を重ねた結果、小さな子どもたちにも夢と希望を与え、今年度の取り組みが園全体の達成感となり、自信につながっています。
- また、保護者会の協力を得て、親子遠足や夏祭り、運動会、サツマイモ掘り、読み聞かせ会、お楽しみ会、もちつき大会など、年々多彩な行事に取り組み、今年度の園外保育では法人所有のマイク

ロバスを利用して、八景島シーパラダイスに3~5歳児クラスが出かけ、引き続き5歳児クラスの「お泊り保育」につなげるなど、新たな取り組みを行っています。

○給食の場面では、保育士が子どもたちの食事の進み具合を見て、「おいしいね。いっぱい食べられたね。もう少しだね」などと、自ら食べてみようとする意欲を大切にしています。

給食時に同席する栄養士も〇〇を食べると「肌がきれいになるよ」、「風邪を引かなくなるよ」、「足が速くなるよ」などと食欲をそそる上手な言葉がけをしています。

○保護者アンケートの日常の保育内容の「遊び」についての項目(5項目)では、平均でも約95%の保護者から概ね満足の高い支持も寄せられています。日々の保育の中でも、子どもたちの健やかな成長と発達に向けた取り組みに「挑戦」し続けています。

## ②「子どもの目線」を大切にした保育の実践

○「子どもの目線で」がこの園では、保育のキーワード(基本姿勢)になっています。保育士は、指導的に関わるのではなく、常に子どもの立場になって、ひとり一人の気持ちを思いやり、お互いを尊重するよう働きかけています。

○ハード面では、園庭やプール、ベランダは成長と発達に合わせて使い分けており、1階の3~5歳児クラスの目の前には思い切り走り回れる広い園庭があり、大型固定遊具や砂場、プール、子どもたちが世話をしている野菜畑もあります。

3歳未満児クラスのある2階には長いひさしのついた広いベランダがあり、夏季は人工芝のコーナーにプールを出したり、幼児用の滑り台も設置されていて、雨の日でもシャボン玉や風船遊びができるなど、安全に配慮して年齢にあった遊びができる環境が設定されています。

そのほか、隣地には自然環境の残る通称「ジャングル山」もあります。

○園内にある2か所の畑では、子どもたちが土づくりから始め、夏にはなす・トマト・とうもろこし・サツマイモ、秋にはブロッコリー・サニーレタス・キャベツ・麦などを植えています。

種や苗を植えてから収穫するまで、「芽が出たよ」、「面白い形」などと気付きを促しています。

散歩の途中で畑を観察しては、トマトの苗が倒れない方法を尋ねたり、虫に食われながらも日々成長する姿を観察し、また収穫時期になると調理方法なども子どもたち同士が考えて食育につなげています。そして、運動会の競技種目には「カレーライスができるまで」を取り入れ、3歳未満児たちにもわかりやすく楽しい食育理解が図れるように工夫をしています。

○自我の芽生えた子どもたちは、時折ケンカになりますが、保育士は危険行為やルール違反がない限り、すぐには口を出さず、双方の反応(言い分)を観察しながら、お互いの気持ちを「言葉」で伝え合う援助を行っています。

「人の物が使いたい時は『か・し・て』って言うんだよ」と、具体的に示し、どちらかが譲ることができたときは、代わりに他のお手伝いを勧めてみるなど、一人ひとりの気持ちを大切にしています。

今回の第三者評価に伴う利用者(子ども)本人調査<満5・6歳児>からも、「友だちとケンカした時の先生の対応」などについて、回答者のほぼ全員から「先生はやさしくしてくれる。ちゃんと聞いてくれる」といった声が聞こえています。

○保護者アンケートの「職員対応」の項目(「あなたのお子さんが大切にされているか」85.1%、「お子さんが保育園生活を楽しんでいるか」92.6%)でも概ね満足されている様子が見られます。

このように、園では「子どもの目線」を大切にしながら、子どもとの信頼関係を築いています。

## ③保育方針の理解・浸透に向けた保護者の保育参加の取り組み

○年度初めに行事予定のお知らせで、その月に生まれた子どもたちの誕生会を全園児でお祝いし、食事を共にする誕生会が行われています。

誕生月の子どもの保護者にも参加を呼びかけ、昼食(実費 500 円)と一緒に楽しむ機会となっています。誕生会では、園長による手品披露や職員による趣向を凝らした人形劇などのほか、我が子の成長の姿に感動と喜びを味わってもらい、参加した保護者から我が子の誕生にまつわるエピソードなどを話してもらっています。

子どもたちには、写真やメッセージの入った手作り色紙がプレゼントされ、終了後には希望者による保育参観や個人面談も行っています。

- 園では様々な行事(例えば、夏祭りやソフトティーボール大会、もちつき大会等)を通して、子どもたちの様子をできるだけ多くの保護者に見て・知ってもらい、保育方針などの理解が図られるよう積極的に働きかけ、取り組んでいます。

また、園長は必要に応じて主任保育士と共に保護者会会長と常にコミュニケーションを図り、改善すべき点などを話し合い、指導計画の作成・評価・見直しにも参画してもらっています。

## 【特に工夫や改善などを期待したい点】

### ①保護者がより意見や要望を気軽に言える仕組みづくりの工夫を

- 苦情解決の仕組みについては、毎年保護者に配布される「入園のしおり」に、苦情受付担当者や苦情解決責任者などが明記されています。苦情相談実績は数件あり、保護者からの相談記録と苦情受付・対応記録票が 1 冊のファイルにまとめられています。

- 保護者の意見や要望については、日々の連絡ノートやクラスノート、送迎時の保護者との会話をはじめ、クラス懇談会、保護者会(年 10 回程度開催)などを通じて汲み取るよう努めています。

また、第三者委員(民生委員と自治会長の 2 名)や福祉サービスに関する苦情解決窓口である権利擁護機関(かながわ福祉サービス運営適正化委員会)についても、園内 1 階廊下事務室横の壁面に PR 用のポスターが掲示されているほか、第三者委員は運動会などの行事の折に保護者に紹介等されています。

- しかし、今回の第三者評価における保護者アンケートにおいては、「不満や要望を気軽に言える雰囲気づくりや対応について」等の点で、満足度がやや低い結果となって表れています。「年に何回かはアンケートを行ったり、意見箱を設けるなどして保護者がいつでも気軽に要望や気持ちを直接園側に伝えられる方法の検討・工夫を」という声も寄せられています。

- 保護者が意見や要望を気軽に言える仕組みづくりに向けては、自分たちの意見等について、園がどのように迅速に検討・対応してくれたのかが、「より見える形」にしていくことも大切と思われます。そのためにも、手間はかかりますが、保護者のちょっとした日々の会話などから寄せられた声を集約し、その結果をより積極的に保護者に開示・説明していくことも必要と思われます。

- また、移管時の申し合わせで、保護者の意見(意向)の集約については、保護者会長の裁量によって臨時総会開催やアンケートを行うことになっているため、園独自での保護者向けアンケートも移管当初に行われて以来、実施されていないことが惜しまれます。

しかし、公立園当時には行われていなかった様々な取り組み(例えば、完全給食の実施やソフトティーボール大会、お泊り保育、マイクロバスを利用した園外保育など)が行われる中で、徐々に園の方針などが保護者に理解・浸透されつつあります。

- 今後は、保護者会との関係をより発展され、明日のより良い保育の実現に向けた保護者ひとり一人の意向把握の取り組みも期待します。

## **②中長期計画とリンクさせた人材育成のしくみづくりを**

- 「人材育成計画」に関するマニュアル(職務分責と指示・伝達の流れなどが示されたもの)がありますが、人材育成に対する基本的な考え方や個々の職員・主任に期待される役割、職員配置の考え方、人材育成の方法、昇任・昇給等のしくみが明文化されるまでには至っていません。  
また、主任や3歳未満児、3歳以上児責任保育士についても個々の保育士に、それぞれのレベルに合わせた資質向上は図っているものの、設定した目標に対する評価や次の目標設定に反映する仕組みが確立されるまでには至っていないことが惜しまれます。
- 園では、法人のスケールメリットを活かして、幹部職員を含めた職員の人事交流などにより、今後、人材育成を計画的に進めていくことを検討しています。その中で、法人全体の中長期的な計画・目標の検討・作成とリンクさせながら、人材育成の方法(スーパービジョン等の手法やプログラム、必要に応じた外部の専門家の支援活用なども)や目標管理のあり方なども含めた人事管理全般のしくみづくりが求められます。  
また、より職員のモチベーション(やる気)アップを図る観点から、職員自らが考え、改善提案等できるしくみを作ることによって、職員の意識改革・向上が図られ、サービスの質の向上にもつながるものと思われれます。


## **③より園の専門性を活かした相談・支援機能の発揮を**

- 地域にある他保育園や小学校などとの相互交流が行われ、園の行事には近隣住民の参加が年々盛んになってきていますが、日々の地域における子育て相談・支援機能の発揮の面では課題が残されているように思われれます。
- 園では、地域子育て支援サービスの一環として、育児相談(毎週火曜日 9:30~12:00)や一時保育(原則 7:00~19:00)、園庭開放(毎週火曜日 11:00~12:00)、育児講座等を実施しています。  
また、旭区の「幼(幼稚園)・保(保育園)・小(小学校)教育交流事業」(講演会等の企画・実施)の中核園として、地域に向けた働きかけと子育て支援ニーズの把握に取り組んでいるものの、育児相談では、公立園の引き継ぎ(移管)時点から今まで(調査日:H19年1月15日現在)に相談実績が見られないことが惜しまれます。
- 言うまでもなく、保育園は地域にとっての貴重な社会資源の一つです。地域の中で子育てに不安を抱える保護者も少なからず多いと思われれますので、今後よりPRを含めたニーズの掘り起こしと対応のあり方などについて検討を深め、園の専門性を利用者のみならず、広く地域に還元されることを期待します。



3つ：高い水準にある、2つ：一定の水準にある、1つ：改善すべき点がある

## 評価領域 I 利用者本人の尊重

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>I-1 保育方針の共通理解と保育計画等の作成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育理念として、「愛と思いやり」に基づいた保育により、子どもの豊かな可能性を探求しながら、地域社会に関わり、共に成長していくことを掲げている。</li> <li>・毎年度保育テーマが掲げられ、今年度(H18年度)のテーマ「挑戦(チャレンジ)」には、子どもに秘められた才能を育むために、チャレンジする意欲を与え続けていくという考えが込められている。</li> <li>・園長自ら作詞作曲した保育テーマ「挑戦」の歌を、各種行事の際に、子どもと一緒に職員も斉唱し、園全体が同じ方向に向かっている様子がうかがわれる。</li> <li>・職員ヒアリングした職員からは、保育理念や今年度のテーマ、あるいは園長の指導項目である「子どもの目線で」等について、それぞれが理解を示す回答が得られ、浸透されている。</li> <li>・理念等が記載された入園のしおりは、毎年職員全員に配布され、会議等には必携とされ、常に職員会議等で園長から理解が促されている様子が、職員会議録やスタッフミーティング会議録等からも確認されている。</li> <li>・保育計画(保育目標、保育方法・環境、保育士としての感性をはじめ、子どもの発達・成長の段階ごとに特徴とねらいを明記したもの)に基づいて、各年齢・クラスごとの年間・月間・週間指導計画等が作成されている。</li> <li>・園の隣接地にある横浜市管理の通称「ジャングル山」を活かして、特に夏季期間の虫取りや飼育などを通じて、基本方針にある「自然の中でのびのびと身体を動かすことができるような保育」が保育計画に盛り込まれ、実践されている。</li> <li>・指導計画については、保育士同士も相互に連携し、子ども一人ひとりの気持ちを汲み取りながら、子どもの意見や表情、しぐさなどから計画の見直し・反省を行い、内容として、子どもの自主性や主体性を育む計画となっている。</li> </ul>

### I-2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施





- ・入園のしおりを活用した入園説明会後に、園長と主任保育士が子ども本人も同席し、保護者と面談し、保護者の作成した書類(児童票や児童健康台帳等)を確認しながら、生育歴や家庭での様子などを把握しつつ、子どもの発達状況や親子の関わり方などの観察も行っている。
- ・入園説明会で、短縮保育(ならし保育)の仕組みについて説明し、保護者の就労状況に関わらず、必要な場合は保護者の希望にあわせて対応している。
- ・0、1歳児クラスの新入園児については、子どもが心強く安心できるように、また子どもへの安全配慮がより図られるように、個別に主担当保育者を決めている。
- ・0歳児クラスの場合、離乳食の進み具合や細かい配慮点等を保護者に連絡ノートで情報提供し、連携を図っている。
- ・各年齢ごとに、クラス担当保育士が、子どもたちの成長・発達の状況を見ながら、クラスの全保育士の話し合いにより、指導計画の各期別目標設定等の修正や週案計画の作成を行っている。

### I-3 快適な施設環境の確保



- ・園内・外ともに保育士と営繕担当職員が場所や時間で役割分担の上、清掃(消毒含む)し、清潔が保たれている。
- ・保育室の開口部は総てガラス窓であり、陽光は十分取り入れられている。
- ・季節ごとの温度設定と状況に応じて微調整を行うとともに、臭気・換気等に努め、快適な環境を心がけている。
- ・必要以上の音楽使用はしないことを原則に、日中の遊び時の音楽とその他の時は音楽を変え、午睡用にはα波のCDを使用するなど、配慮をしている。
- ・保育士は概して穏やかな口調で話をし、必要時以外は大声を張り上げることがないように意識している様子がうかがわれる。
- ・子どもの年齢にかかわらず、必要な時には、シャワー等を使用し、身体の清潔を保つようにしており、シンクも清潔に保持されている。
- ・2階外デッキスペースにもシャワーが設置されており、給水だけではあるが夏季に、頻繁に使用されている。
- ・沐浴設備設置及びトイレを含めた水回りの改良のため、現在横浜市に補助金申請する予定である。
- ・1・2歳児クラスについては、室内とベランダの使い分けや2階の人工芝スペースを活用するなどして、それぞれ落ち着いて小さな単位(小集団)でも遊びができるように工夫している。また、3歳以上児クラスが園外などで活動している時などは、2歳児クラスを1階の保育室に移し保育活動を行っている。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食べる・寝るの空間は同じ保育室を使っているが、食事後などの床清掃には特に配慮し、拭き掃除と掃き掃除を衛生面にも注意しながら行っている。</li> <li>・混合保育が行える曜日・期間(時間帯)は食べる・寝るの空間を完全に分けている。</li> <li>・朝の活動としての体操は3~5歳児クラスが、土曜の保育は0~5歳児クラスの子どもが、1階の保育室で異年齢児交流を行っている。その他、3~5歳児クラスの子どもは朝・夕のリレー(かけっこ)交流等を園庭で行ったり、マイクロバスで園外に出かける機会を増やすなど、異年齢児交流の環境を確保している。</li> </ul>
<p>I-4 一人ひとりの子どもに個別に対応する努力</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・0~2歳児クラスについては個別に月間指導計画が作成されている。</li> <li>・日々の様子については個別の連絡ノートがあり、保護者の意向も踏まえながら指導計画に活かしている。幼児クラスについても、特別な課題のある子どもの場合には、月間指導計画の「個別配慮」欄に記載し、個別指導計画としている。</li> <li>・連絡ノートやクラスノートを通じて、あるいは送迎時の保護者との会話やその都度手紙のやり取りなどの中で、保護者の意向を汲み取りながら、個別指導計画の見直しを行っている。特に子どもの良い点に着目して計画の見直しを行うようにしている。</li> <li>・子どもの記録内容などを非常勤職員や派遣職員にも周知しており、個人情報保護法に抵触しないよう「個人情報の取扱いファイル」を基準に配慮しながら、全職員が子どもたちの発達状況などを共有するように努めている。</li> <li>・子どもの責任担当保育士が、重要な申し送り事項の記録を行い、クラス会議や職員会議などで進級時に伝達されている。進級時には、保護者と改めて個別に面談し、児童票・健康台帳等の情報を更新している。</li> </ul>
<p>I-5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別のケースについては、月1回の3歳未満児・3歳以上児会議で話し合いが行われ、それぞれの会議録はファイリングされている。</li> <li>・特に配慮を要する子どもの受け入れに際しては、区福祉保健センターや市保育運営課の保育担当等とも連携している。</li> <li>・特別支援児童については、西部地域療育センターと連携し、個別指導計画に生かしている。</li> <li>・現在、障害認定を受けた子どもは在籍していないが、状況に応じて西部地域療育センターと連携し、それぞれの障害特性に応じて、0~2歳児クラスについては個別指導計画を作成し、3歳児クラス以上であれば、月間指導計画の「個別配慮」欄に記載し、経</li> </ul>



過については個人ノートに記録され、計画の見直しも行っている。

- ・園では、日々の統合保育に努めているが、子どもたちは、「違い」を判りつつ、手伝うところは手伝うなど自然な接し方で、障害の有無に関わらず、分け隔てなく交流している。
- ・新しい病気や障害等については、職員会議などで職員全員が学習し、情報を共有している。
- ・アレルギーについては、主治医が記載した除去食申請情報をもとに、栄養士を中心に給食会議(月1回)等で検討し、全職員が情報共有して対応している。
- ・除去食は他の子どもたちの食事と見た目や形状を同様にする工夫も行われている。
- ・代替食については、今後の課題となっている。
- ・従来から外国籍、あるいは保護者が外国籍の子どもの受け入れを行っている。
- ・保育士たちが、文化や生活習慣、考え方の違いを認め尊重していることによることもあり、子どもたち本人はその国の言葉をしゃべること、しゃべられることについて全く心理的に負担感を持っていない。また、周囲の子どもたちも、外国語をしゃべることについて「すごい」という認識はあるものの、差別的な扱いをするようなことはない。子どもたちもありのままを受け入れている。
- ・入園時はもとより、日常の提出物、遠足の持ち物・集合時間等々について、日本語が読めない保護者の場合、身振り手振りを交えて口頭で説明したり、漢字が読めない場合にはアルファベットやひらがな・カタカナなどで表記するなどし、意思疎通を図っている。


#### I-6 苦情解決体制



- ・意見や要望の苦情解決の仕組みとして、受付担当者(主任)と解決責任者(園長)などがおり、入園説明会などで保護者に配布される「入園のしおり」に明記し、説明されている。
- ・園内1階廊下壁面に、第三者委員の2名(近隣の民生委員・児童委員と自治会長)の顔写真と連絡先が示されたポスターが掲示されている。第三者委員には園を介さず直接意見・要望・苦情を申し立てたり、相談することができる。
- ・福祉サービスの利用に関する苦情解決窓口である権利擁護機関(かながわ福祉サービス運営適正化委員会等)についても同様にPR用のポスターが掲示されている。
- ・第三者委員は運動会等の各種行事の際に園を訪問し、保護者に第三者委員の立場と名前等の紹介がされ、行事後には園長等と意見交換している。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第三者委員への申し立てを含めた苦情解決マニュアルや受付書式等が整備され、具体的な手続きや流れが職員会議などを通じて共有できる仕組みがある。</li> <li>・保護者からの相談記録と苦情受付・対応記録票が1冊のファイルにまとめられている。過去の苦情・トラブルや要望のデータを活かし改善に努めている。</li> <li>・園単独で解決困難な場合には、保護者会会長や第三者委員に相談したり、区福祉保健センターの保育担当、横浜市保育運営課に連絡・協議するなど、連携している。</li> <li>・クラス懇談会や保護者会(年10回程度開催)、日々活用している連絡ノート(0歳児～2歳児クラスで活用)・クラスノート、あるいは送迎時の保護者との会話から汲み取るよう努めているものの、今回の第三者評価における保護者アンケートにおいては、「不満や要望を気軽に言える雰囲気づくりや対応について」等の点で、満足度がやや低い結果となって表れている。</li> </ul>
--	--

## 評価領域Ⅱ サービスの実施内容

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>Ⅱ-1 保育内容【遊び】</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一斉保育と自由遊び、園庭遊びと室内遊び、積極的に園外へ出かける体験(園外)保育、土曜日の混合保育など、柔軟な指導計画により、子ども一人ひとりが遊びに熱中できる時間とスペースがある。</li> <li>・保育室にはオープンな棚があり、年長児は色鉛筆やパズル、すごろくなど自由に取り出して遊ぶことができる。</li> <li>・特別のスペースはないものの、0～1歳児クラスにはフローリングの一部に畳や絨毯のスペースがあり、ちょっとした空間を利用して子どもたちは思い思いに、居心地の良い場所を見つけては自分の遊びを楽しんでいる。</li> <li>・園庭やプール、ベランダは成長・発達に合わせて使い分けており、広い園庭には大型固定遊具や砂場、プール、野菜畑がある。</li> <li>・2階には長いひさしのついた広いベランダがあり、夏季は人工芝のコーナーで水遊び、幼児用滑り台、雨の日でもシャボン玉や風船遊びなど、安全に配慮して年齢にあった遊びができる。</li> <li>・園庭の固定遊具では、ローラー滑り台が人気で、自分たちでルールを作りながら自由な発想で集団遊びを広げている。</li> <li>・園内には2ヶ所の畑があり、子どもたちは土づくりから始め、夏にはなす・トマト・とうもろこし・サツマイモ、秋にはブロッコリ</li> </ul>

- ー・サニーレタス・キャベツ・麦などを植えている。種や苗を植えてから収穫するまで、「芽が出たよ」、「面白い形」と気付きを促している。
- ・「カレーライスができるまで」を運動会の競技種目とし、3歳未満児たちにもわかりやすく楽しい食育理解が図れるように工夫をしている。
  - ・保育士は子ども同士のけんかの際に、すぐには叱らず、双方の気持ち(言い分)を汲み取り、お互いに自分の「言葉」で伝え合う援助をしている。
  - ・隣接地に通称「ジャングル山」公園があり、日頃散歩に出かけては自然を満喫しているが、夏はカブトムシなどが大量に飛んできては、子どもたちが大喜びで飼育し、自然の不思議さ、生命の大切さを学んでいる。
  - ・0~1歳児クラスは馴染みの「お母さんといっしょ」(NHK番組)の歌を覚えて、リズムに乗って体をゆすり、「ああ」とか「おう」と声を上げながら飛んだり、跳ねたり、転がったり、体全体で喜びを表している。
  - ・2~3歳児クラスになると保育士と一緒に、「手遊び歌」や「わらべ歌」、「なあにつかな」などと、動物探しの歌に誘われて部屋中を走り回り、わくわくしたり、びっくりしたり、友達同士の関わりも大事にしながら、言葉の面白さも体験できるように配慮している。
  - ・4~5歳児クラスになると、さらにオルガンに合わせて「ジャンケン列車ゲーム」や「椅子取りゲーム」を行い、勝敗にこだわる様子も見られ、子どもたちが年齢や発達に沿った自己表現力を身につけ、日々の保育の中で自分らしさを発揮している様子がうかがわれた。
  - ・もちつき大会や運動会などの行事、園外保育や毎週土曜日の混合保育、日々の保育の中でも柔軟に、いろいろな組み合わせの異年齢交流の場を意識して作っている。
  - ・毎月行われる誕生会では、誕生月の子どもの保護者を招き、多目的ホールで園児と昼食を食べながらお祝いをしているが、園長による手品や保育士たちが毎月趣向を凝らした人形劇、歌などの出し物を通して、共に子どもの成長を喜び合い、信頼関係が築けるよう、子どもや保護者へメッセージを送っている。
  - ・年に数回は法人所有のマイクロバスを利用して、近隣の施設(八景島シーパラダイスや金沢自然公園等)へ出かけ、「豊かな可能性を探求しながら、地域社会に関わり、共に成長していく」という園目標に沿って実践されている。

- ・昨年度より3歳～5歳児クラスがソフトティーボール(ゴムボールをティーの上に置いて、バッティングする幼児向けの野球)大会に参加し、保育士の熱意と日々の練習を通して体力増進と社会性の育成に取り組み、年少の子どもにも「夢」を与え、「チャレンジ(挑戦)」(H18年度の保育テーマ)する意欲につながる良い影響を与えている。
- ・日々の保育でも裸足保育や薄着を励行し、健康増進を図っており、保護者アンケートの結果からも、「遊びを通じた健康づくりの取り組み」は高い満足度となって表れている。

## Ⅱ-1 保育内容【生活】



- ・食事は保育の基本であり、「毎日楽しく感謝して食べること」を日頃の食育の一環としている。
- ・栄養士は給食時に同席し、「〇〇を食べると肌がきれいになるよ」、「風邪を引かなくなるよ」、「足が速くなるよ」等と上手な勧め方をしながら、喫食状況を把握して献立などに反映している。
- ・3歳児以上は給食の時間に当番活動を行っているが、どの子ども楽しんで食事の準備や片付けに関わり、誇らしげに役割を担っている。給食当番の挨拶は掛け合いも楽しく、子どもたちは和やかな雰囲気ですべて食事をしている。
- ・食事は伝統的和風料理(昔ながらのきんぴらごぼうや鰹節をかけたほうれん草のおひたし、ひじきの炒め煮、わかめの酢の物、季節野菜の天ぷら、魚や大豆製品を使った日本伝来の季節感のある食事)中心だが、時には「スイトン」や「サータアンダギー」(沖縄のお菓子)などのおやつを出し、子どもたちに「なに?それ?」という楽しみ(興味・関心)を提供している。
- ・パネルシアターや紙芝居で収穫した作物をおいしく食べる楽しさを視覚的に訴える食育活動も行っている。
- ・毎月行われる誕生会は、保護者や園児全員が多目的ホールに集まってお祝いをする会食のため、栄養士は人気のあるメニュー(例えば、全員に果物をつけたり、ハンバーグ、グラタンなど)を選んで雰囲気を出している。
- ・また、誕生会では我が子の成長の姿に感動と喜びを味わってもらい、参加した保護者から我が子の誕生にまつわるエピソードなどを話してもらっている。園長が「食は保育の基本」と言っているとおり、この機会に保護者は日ごろの給食ばかりでなく、園の保育方針の実践を垣間見ることができる。
- ・食器は環境ホルモンに配慮し、メラミン製ではなく、すべて磁器製を用い、子どもが持ちやすい安定したものを採用している。器の形や大きさは成長や発達に合わせてクラスごとに変え、スプーンやフォークには動物の柄がついていて、子どもが食事を楽しく

る小さな心配りがある。

- ・毎月、全保護者に配布されている献立表には、摂取する栄養素がイラスト入りで分かりやすく記載され、また3ヶ月に一度発行されている「青少年新聞」にも興味深いレシピ紹介や意外な食材の栄養素、七草の由来などが掲載され、食生活を見直すポイントが示されて様々な食の情報が提供されている。
- ・給食やおやつのサンプルケースが調理室のカウンターに展示され、家庭での夕食・献立づくりの参考や降園時の親子会話の話題となっている。
- ・午睡時には、保育室にカーテンを引き、音楽やお話テープなどを用意して、子どもたちに十分な休息が取れるように配慮している。
- ・5歳児クラスには秋の運動会以降に、個別状況を考慮した上で「午睡をしない日」の開始時期を決めている。年長児は「午睡のない日」を楽しみにしており、自由遊びを満喫している。
- ・園では受け入れが生後6ヶ月からなので、寝返りのうてない乳児はいないが、保育士が様子を見ながら、うつぶせ寝で寝つく子どもを仰向け寝にし、概ね10分間隔で呼吸チェック(SIDS対策)をしている。
- ・特に0~1、2歳児クラスの子どもたちは、夏季などの水分補給と排泄状況、急変しがちな健康状態を連絡ノートに細かく記載し、家庭へ連絡を行っている。
- ・おもらした子どもを叱ったりせず、気持ちの良さを伝えて清潔を保つよう援助している。
- ・トイレ内にシャワーや汚れ物袋があり、失敗した子どもの気持ちを傷つけない配慮がある。自分でできるところは任せ、トイレのそばにさっとキルティングの布シート(着替えの際、床が冷たくないように)と着替えを置いておくなど、やさしい心遣いがある。

## Ⅱ-2 健康管理・衛生管理・安全管理【健康管理】




- ・子どもの「健康管理」マニュアルや「感染症への対応」マニュアル(年間保健計画を含む)があり、入園のしおり(「保健と健康管理」として)に学校保健法に基づく伝染病の種類、感染経路、潜伏期間、感染期間と出席停止期間の基準や与薬についての約束事などが記載され、重要事項は保護者に周知されている。
- ・入園時に保護者から既往症等の情報提供を受け、個人ファイル(児童票のほか、1年間の経過記録、健康台帳、治癒証明書、歯科健診票、身体計測の記録など)を作成している。
- ・4月に健康診断、毎月の身体測定(「大きくなったかなカード」に記載)、6月に歯科健診が実施され、一人ひとりの健康診断・歯科健診記録がある。


- ・健康診断・歯科健診・4 歳児クラス等の視聴覚検診の結果を各家庭にお知らせすると共に、必要に応じて嘱託内科医・歯科医と連携をとり、主治医へつなげている。
- ・感染症については、区福祉保健センター(保健所)から情報が入るとすぐに各クラスに状況と対策を掲示し、保護者にお知らせ等で通知している。
- ・特に、H18 年度は「ノロウィルス」について区福祉保健センター(保健所)から、お知らせが来るとすぐに、調理室で対策を検討し、職員会議や職員回覧を通して、吐しゃ物処理の仕方(ノロセットを活用)などを周知徹底している。
- ・幼児食が始まる 1 歳から歯磨き指導を始め、3 歳までは保育士が仕上げ磨きをし、3 歳児クラス以上は仕上げをしながら歯磨き(磨き残し等がないか)点検をしている。
- ・毎年、嘱託医による歯科健診があり、健診結果から df 指数〔(乳児の処置指数+未処置指数)÷受診者数〕をデータ化しているが、3, 4, 5 歳児クラスとも虫歯罹患児が減少しており、口腔衛生の向上に効果が出ていることが検証されている。
- ・H17 年度には嘱託内科医による「子どもの急な発熱」に関する講演会、H18 年度 1 月には法人系列園のちとせ保育園と合同で、「歯磨き」講座が開催され、ゾウのキャラクターの大きなポスターを作るなどして保護者に呼びかけ、どちらの講座も職員を含めて 100 名弱の参加があった。

## Ⅱ-2 健康管理・衛生管理・安全管理【衛生管理】



- ・「衛生管理」マニュアルがあり、子どもの活動場所ごとに衛生管理の内容・方法、留意点がわかりやすくまとめられ、全職員に配布、採用時と年度初めに研修を行うなどして周知されている。
- ・毎日の手指消毒については、通常時、下痢、感染症発生時などに分けて、子どもにもわかりやすく、各クラスに図解入り(「正しい手の洗い方、再確認しましょう!」)で掲示されている。
- ・衛生面に配慮し、トイレはペーパータオルを使用し、コップ・はし・手洗い場の手拭タオルも毎日持ち帰りとしている。
- ・おもちゃの消毒方法は、種類ごとに消毒方法が定められ、特に 0 ~1 歳児クラスの口にするおもちゃは安全性に配慮して、午睡時に毎日お湯拭き等をしている。
- ・ほぼ一日、裸足で過ごす子どもたちの安全と清潔面に配慮し、室内の床拭きは朝・夕、給食後、おやつ後と午睡時間を利用して一日最低 5 回行われている。
- ・保育室やトイレその他は、マニュアルどおり清掃され、清潔に保たれている。
- ・「調理室マニュアル」と「安全管理マニュアル」の中にも衛生管理に

	<p>関わる清掃チェック表があり、調理室内外や園庭清掃、砂場(砂)の清掃消毒、グラウンド整備などは、特に注意を払ってチェック表に基づいて実施され、子どもの日々の健康・安全対策に努めている。</p>
<p>Ⅱ-2 健康管理・衛生管理・安全管理〔安全管理〕</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「事故防止」マニュアルがあり、園内外の安全点検ポイントを日常的なこと、散歩に行くとき、午睡時などに分けて、職員の留意点を簡潔にわかりやすく記載し、事故やケガの際のかかりつけ医療機関もリストアップし、診療時間なども記載されている。</li> <li>・「事故発生時の対応」は、医療機関への受診判断基準や応急処置、その他の対応方法がイラスト入りで解説され、緊急時に備えている。</li> <li>・また、「地震・災害対策」マニュアルがあり、地震や火災の発生時、避難訓練の対応のしかたと職員の役割分担、注意事項等が明記されている。</li> <li>・「防犯」についてのマニュアルには、正門の施錠、2階と外階段の扉、午睡時、散歩、不審者侵入、時間外・土曜日について等の項目に分けて対策が明記され、防犯チェックリスト(園児の安全確保及び安全管理点検32項目)も活用されている。</li> <li>・毎月、火災または地震を想定した避難訓練を実施しており、「防犯・防災対策及び避難訓練計画」のファイルに避難所要時間短縮の工夫や非常ベルの音が聞こえにくいなど、実施状況や反省点が記録され、訓練の効果が検証されている。子どもにも「お・か・し・も」＝「おさない・かけない・しゃべらない・もどらない」とわかりやすく教えている。</li> <li>・また、年に1回、防犯訓練や交通安全指導、不審者侵入を想定した訓練も毎年10月に行われている。</li> <li>・災害時の広域避難場所は本宿小学校になっているが、園内でも安全に避難できるように衛生具や食糧を3日分備蓄するなど、対策をとっている。また、職員に救急救命士資格取得者がいる。</li> <li>・事故(ケガ)報告書の書式が定められ、ちょっとした擦り傷やケガであっても、必ず保護者に状況と処置経過等を報告し、記録後の職員会議等で再発防止に向けた検討が行われている。</li> <li>・小さいケガでも保護者の同意を得て、完治するまで保育士と通院受診している。また、体調不良と共に乳児クラス(0～2歳児)と幼児クラス(3～5歳児)に分けて「日常のケガノート」に記録され、職員全員にも周知されている。</li> <li>・事故(ケガ)報告書には発生状況と職員の処置のほか、反省点が記載され、再発防止に努めている。事故(ケガ)報告書にはヒヤリハット対策も明記され、室内・外や園外保育(散歩)のジャンルに分</li> </ul>

	<p>けて、安全点検のポイント、指導上の配慮事項が盛り込まれている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地元旭警察署からの「スクールポリスネット」により、不審者情報が得られる体制になっており、夕方や裏門の閉門時には職員の見回り、在園児の祖父母や町内会住民が登録した旭区「くらし安全指導員」のボランティアによるパトロールなどにより、園ではすぐに対応できる仕組みを確保している。</li> </ul>
<p>II-3 人権の尊重</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園長は全職員に「子どもの目線で」をキーワードとして、子どもの人格尊重等を意識化させており、保育観察からも保育士は指導的に判断(関わり)するのではなく、常に子どもの立場になって、一人ひとりの気持ちを汲み取り、お互いを尊重するように働きかけること、また子どもと保育士との信頼関係を大切にしている。</li> <li>・保護者アンケートの総合満足度&lt;「満足」+「どちらかといえば満足」&gt;で 88.9%となっており、その中でも「お子さんが大切にされているか」(85.1%)、「あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるか」(92.6%)と概ね満足の回答が寄せられている。</li> <li>・異文化交流や障害児保育、異年齢児交流など、お互いを尊重する保育を実践しており、法人の理念として「隣人愛の社会的実践の場として、地域社会に関わり、共に成長していくことを目的とする」とあるように、子どもの人格を辱めたり、自尊心を傷つけるような保育は「子どもの目線」というキーワードにも反することを全職員が理解している。</li> <li>・民間移管で公立園から引き継いだ建物のため、特別なスペースはないが、おもちゃ棚の脇やロッカーとコーナーの間のちょっとした隙間、押入れの下、園庭の固定遊具の隅など、子どもには友だちや保育士の視線を気にせず過ごせる場所となっている。</li> <li>・園長室(事務室)が多目的に使用され、必要に応じて子どもとの話し合いのスペースとなっている。具合(体調)の悪いときに休む休養室でもあり、子どもにとって安らげる場所であり、プライバシーが守られる場所でもある。</li> <li>・個人情報の取り扱いファイルの中に、「ガイドライン」があり、具体的に文書保存期間や公開・非公開のチェックリストをはじめ、情報公開の流れなどをわかりやすくまとめ、全職員に周知している。</li> <li>・ボランティアや実習生へは受け入れの際に、園長や主任保育士が説明している。</li> <li>・個人情報に関する個別ファイルや職員会議録などは、すべて事務所内の施錠できる書庫に保管・管理されている。</li> <li>・虐待が疑われる事例を通して「虐待」の定義を職員会議などで周知</li> </ul>



している。

- ・虐待が判明した際や疑われる場合も、園長が担当者(窓口)となり、早期に区福祉保健センター等の担当ケースワーカーへ通報し、専門機関である児童相談所とも連携する体制を確保している。また、職員間の連携のあり方を考え、子どもの個別相談記録を作成し、継続的に保護者への適切な支援を行う体制を整えている。
- ・遊びや行事の役割、持ち物、服装などで性別による区別はしていない。
- ・順番、グループ分け、整列なども性別にしていない。クラスごとの帽子(3歳児:紫・4歳児:青・5歳児:ピンク)はあるが、園庭遊びや園外保育の際に区別するためである。
- ・性差による固定観念で保育が行われないように、園長や主任保育士、3歳未満児・3歳以上児責任者が協力して日々指導に努めているものの、職員同士で振り返ったり、反省・学習しあう仕組みを作るまでには至っていないことが惜しまれる。

#### II-4 保護者との交流・連携





- ・保護者には入園説明会をはじめ、クラス懇談会や保護者会などの折に園の保育方針が理解されるよう説明しており、毎月開催される誕生会を通して園の基本方針が理解されるよう努めている。
- ・個々の保護者との日常的な情報交換は、子どもの送迎時に口頭でその日の様子を伝えるほか、連絡ノートやスケッチブックを活用した「一日の様子」(読み終わった後、保護者がチェック)等で伝えている。
- ・行事や健康に関する注意事項、感染症発生などの情報は保育室壁面に「お知らせ」を掲示し、毎月発行される園だよりや行事などのお知らせは、名前を付けたウォールポケットから各自持ち帰るよう工夫されている。
- ・0~2歳児クラスは定型の連絡ノートがあり、子どもの生活の連続性からきめ細かく家庭と連携している。子育てが初めてで不安一杯な保護者に対しては、共感しながらも力強く励まし、子育て情報誌なども研究しながら親の子育てを支援している。こうして綴られた連絡ノートは、子どもの成長・発達記録として家庭では宝物になっている。
- ・3歳児クラス以上には定型の連絡ノートはないが、保護者の希望により任意で連絡ノートを作成することもできるほか、長い休みの後などや随時手紙などで連絡のやり取りをしているものの、今回の第三者評価における保護者アンケートでは、「送り迎えの際のお子さんの様子に関する説明について」回答者の18.5%がやや満足度の低い状況となっている。その他の要望・意見では、「3歳児クラス以上にも連絡帳があれば、一日の子どもの様子が詳しく

分かり、安心します。また、楽しみでもあります。」というような声も若干ではあるが寄せられている。

- ・移管時の申し合わせで、重要な決定事項は園長(理事長)と保護者会会長の話し合いで解決することが確認されている。合意困難な場合には、保護者会長の判断によってアンケートや臨時総会などを開催し、保護者の意見(意向)を集約することが文書化されており、園長(理事長)は保護者会長と常にコミュニケーションをとっている。
- ・保護者会への「意見箱」は設置されているものの、園への直接の「意見箱」は設置されておらず、民間移管された年以降、保護者向けアンケートを実施するまでには至っていないことが惜まれる。
- ・今回の第三者評価に伴う保護者アンケートでは、「園の保育理念・保育方針について」回答者の 66.7%が認識しており、その内 94.4%の保護者から賛同(支持)されているものの、若干ではあるが、「年に何回かはアンケートをしたり、保護者が気軽に要望や気持ちを伝える方法を検討してほしい。」といった声も寄せられている。
- ・保護者との相談は園長室(事務室)などで個別対応し、周囲を気にせず相談できるようになっている。
- ・全体としての個人面談はないが、毎月の誕生会終了後に希望する保護者と個別に面談する機会を設けている。
- ・保護者からの相談を受けた職員はスーパーバイズできる経験とスキルを持っている3歳未満児もしくは3歳以上児責任保育士や主任保育士に相談し、適切に対応できるようになっており、さらには速やかに園長が対応できるような体制をとっている。
- ・保護者アンケートの「保護者からの相談事への対応」でも 88.8%が概ね満足となっている。
- ・クラス懇談会をはじめ、入園説明会などではビデオや写真等を活用し、「お楽しみ会」では0歳児クラスの生活の様子をスライドにして、子どもたちの様子や活動をわかりやすく情報提供するなど、日常の保育への理解が図られるように努めている。
- ・毎春行われる入園説明会で、「保育園の一年」として年間行事予定表を全保護者に配布しており、就労状況を考慮し、親子遠足や夏祭り、運動会、餅つきなどの行事は土曜日に開催している。
- ・行事を通して園の様子をできるだけ多くの保護者に知ってもらい、理解が深められるようにと「夏祭り」や「ソフトティーボール大会」、「もちつき」など、積極的に保護者への参加を呼びかけている。
- ・保護者会は年 10 回程度開催され、必要に応じて園長や主任保育士なども出席して、園からの情報提供をはじめ、コミュニケーシ


	<p>ョンを図っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者会活動としては、毎月会報「ひろば」の発行や園文庫（絵本の貸し出し）、夏祭り、運動会、餅つき、バザーなどの園行事に協力している。</li> <li>・園では日曜日の活動以外、保育室等のスペースを保護者会に提供している。</li> </ul>
--	---



### 評価領域Ⅲ 地域支援機能

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅲ-1 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「もちつき大会」や「講演会」などの園行事に町内会長や地域住民を招待し、園庭開放や一時保育を通して、できる限り意見や要望を汲み取る機会を設けている。また、その際得た地域の子育て支援ニーズを職員会議などで話し合い、翌年度の計画に反映するよう努めている。</li> <li>・S60年に横浜市幼児教育センターが各区に「幼(幼稚園)・保(保育園)・小(小学校)教育交流事業」を設置したが、旭区として組織化された当初から園長(理事長)が中核となり、講演会等を企画・推進することにより、地域に向けて積極的に働きかけを行っている。</li> <li>・地域子育て支援サービスとして、継続して育児相談(毎週火曜日 9:30~12:00)、一時保育(原則 7:00~19:00)、園庭開放(毎週火曜日 11:00~12:00)を実施している。</li> <li>・第三者委員や園児の保護者が近隣町内会長を務めており、行事や日常の情報・意見交換を通じて地域との密接(良好)な関係を保っているものの、地域の子育て支援ニーズ把握に向けて実施している育児相談(毎週火曜日の 9:30~12:00)では公立園の引き継ぎ時点から今まで(H19年1月15日現在)に相談実績が見られないことが惜しまれる。</li> <li>・毎年、園児と保護者のほかに、近隣の親子などを対象に地域向けの育児講座を行っており、H17年度は絵本の読み聞かせをテーマに、直木賞作家で「よい子に読み聞かせ隊」の志茂田景樹さん(隊長)を講師に招いて好評を得ている。</li> </ul>
<p>Ⅲ-2 保育園の専門性を活かした相談機能</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に向けて、一時保育や園庭開放、育児相談を実施しており、お知らせを正門内外の掲示板に掲示している。</li> <li>・育児相談は移管前から毎週火曜日(9:30~12:00)に時間を設けており、園への問い合わせは随時、主任保育士が窓口となり園長等が対応している。</li> </ul>


	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園行事や講演会等のお知らせは町内会長をはじめ、関係者に周知しているものの、地域に広く回覧(情報提供)するまでは至っていないことが惜まれる。</li> <li>・「鶴ヶ峰保育園関係機関リスト」のファイルがあり、横浜市こども青少年局などの行政関係機関や団体をはじめ、食材調達業者、絵本の出版社など、必要な連絡先等はすべてリストに収められ、職員が情報共有している。</li> <li>・関係機関・団体等との関わり方、連携のしかたなどは園長をはじめ主任保育士、3歳未満児責任者、3歳以上児責任者が把握しており、必要時に担当保育士などに指導しているものの、マニュアル化されるまでには至っていないことが惜まれる。</li> <li>・地域住民からは、入所希望や一時保育の問い合わせが多いが、必要に応じて園長が主担当者(窓口)となって中央児童相談所や西部地域療育センター、区福祉保健センター等と連携している。</li> </ul>
--	--


#### 評価領域Ⅳ 開かれた運営


評価分類	評価の理由(コメント)
<p><b>Ⅳ-1 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</b></p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園行事のもちつき大会や運動会、入園・進級式、卒園式などに地域住民や小学生なども招待・参加している。また、著名人(直木賞作家で「よい子に読み聞かせ隊」の志茂田景樹さん)による絵本読みや育児講座には近隣の親子も参加している。</li> <li>・法人所有のマイクロバスを利用して、園外保育(動物園、水族館、植物園等)をするほか、近隣の本宿小学校 1・2 年生等とのプール遊び交流や他園のくらき永田保育園(南区)とのゴルフ場での遠足・ピクニック交流など、数多くの交流を行っている。</li> <li>・ソフトティーボール大会(ゴムボールをティーの上に置いて、バッティングする幼児向けの野球)については、本大会に向けた練習試合も出場他園と行っている。</li> <li>・毎年秋には県内 10 数園程度が加盟しているソフトティーボール大会を川崎球場で行い、他園児との交流を積極的に図っている。</li> <li>・H18 年度は並み居る強豪を抑えて優勝している。また、法人系列のちとせ保育園とは双方の園を訪問し、園庭などで交流保育を積極的に行っている。</li> <li>・H17 年度から園庭開放を毎週火曜日(11:00~12:00)に行っている。</li> <li>・「園庭開放のおやくそく」を作成し、事故防止等にも配慮し、楽しく遊べるように案内をしている。</li> </ul>

<p>IV-2 サービス内容等に関する情報提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・横浜市こども青少年局のホームページに、園の保育方針、独自の保育サービスと保育料以外の保護者負担、保護者との約束事等が案内されている。また、区の広報誌では、入園申し込み案内などが掲載されている。</li> <li>・問い合わせに対しても常時説明・対応できるようになっている。</li> <li>・利用希望者の見学は、日常の保育に支障のない範囲でいつでも対応できることを案内している。</li> </ul>
<p>IV-3 ボランティア・実習の受け入れ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアの受け入れについては、マニュアルが作成され、個々の受け入れにあたっては、園だよりや掲示等を活用して案内されている。</li> <li>・職員会議では、ボランティア受け入れの意義や基本的な考え方が説明されている。受け入れ担当者は主任保育士で、育成担当者は主任補佐となっており、受け入れ時の記録も整備されている。</li> <li>・区役所に登録された高齢者ボランティア(現在2名)が園庭の樹木伐採や餅つき大会に参加・活動している。</li> <li>・H17年度の小・中学生ボランティアの受け入れは、中学校から「ボランティア夏休み体験学習」で2校、小学校から1校4名となっている。</li> <li>・実習生の受け入れについては、マニュアルが作成され、受け入れ担当者は主任保育士となっている。</li> <li>・個々の実習生受け入れにあたっては、職員会議で案内され、実習生受け入れの概要は、園だよりや掲示等を活用して案内され、園としての実習生受け入れに対する基本的な考え方と注意・留意点を確認されている。</li> <li>・実習生には入園のしおり等を活用し、オリエンテーションで園の方針や利用者への配慮、準備する物などを説明している。</li> <li>・日々の保育では各クラスの実習担当者(チーフ担当)が決められている。</li> <li>・実習生の感想文やお礼の手紙などの記録がきちんとファイルされている。また、実習の振り返りや意見交換の場も設けられている。</li> <li>・H17年度の実習生受け入れ実績は、8校から16名となっている。</li> </ul>


評価領域V 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>V-1 職員の人材育成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「人材育成計画」に関するマニュアル(職務分責と指示・伝達の流れなどが示されている)が整備されているものの、人材育成に対する基本的な考え方や個々の職員・主任に期待される役割、職員配</li> </ul>

	<p>置の考え方、人材育成の方法、昇任・昇給等のしくみが明文化されるまでには至っていないことが惜まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の目標「挑戦(チャレンジ)」は子どもたちの目標であるとともに職員目標でもある。園長は「子どもの主体的な活動を待てる職員になって欲しい」との考えから、職員会議等で指導・教育を行っている。</li> <li>・主任や3歳未満児、3歳以上児責任保育士も個々の保育士に、それぞれのレベルに合わせた資質向上に努めているものの、設定した目標に対する評価や次の目標設定に反映する仕組みが確立されるまでには至っていないことが惜まれる。</li> <li>・研修計画があり、研修担当は主任保育士となっている。</li> <li>・外部研修については、「横浜の保育を考える会」主催の研修や「幼児虐待」の研修に一部職員を参加させており、その他栄養士は食育や栄養管理全般についての研修を受講している。</li> <li>・他施設での実地研修を含め、その他外部研修に関しては、園が手薄になることへの保護者側の十分な理解を得られるまでには至っていない状況下等のため、現段階ではできる限り自粛している。</li> <li>・外部研修に参加したときには、研修報告が提出・回覧され、職員会議等でも報告されているものの、研修の成果を評価したり、内容を見直す仕組みを確立するまでには至っていないことが惜まれる。</li> <li>・非常勤職員、派遣職員にも正職員と同様の職務を行ってもらうという、園の基本的な方針のもと、関連業務マニュアルが配布されている。</li> <li>・内部研修には、非常勤職員含めて全職員が参加でき、資質向上に取り組んでいる。また、職員会議には非常勤・派遣職員も参加し、園方針の理解と情報の共有化を図っている。</li> <li>・非常勤職員の日常的な指導担当は主任保育士が担っている。また、年4回の法人内部研修会等には、非常勤職員も参加し、職員交流の機会になっている。職員ヒアリングの結果からも、職員間の連携やコミュニケーションが図られ、「風通しが良い」様子がうかがえた。</li> </ul>
<p><b>V-2 職員の技術の向上</b></p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月定例の職員会議等が持たれ、日々の保育内容や各種行事の進め方などについて、職員ひとり一人のスキルの問題として自己評価と改善に向けた検討が積み重ねられている。</li> <li>・例えば、秋の運動会前に全職員が「運動会にあたって」というテーマで、抱負や心がける点等を園長(理事長)に提出し、運動会終了後の職員会議の場で、ひとり一人が自己評価・反省点を発表して</li> </ul>

	<p>いる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園長や主任は次回の運動会に向けた改善点を園全体の取り組みとするため、良い点は褒め、改善点については指導・助言している。</li> <li>・保育内容や運営に関して、園長の友人である九州ルーテル学院大学学長をはじめ、弁護士、教育委員会関係者、他法人園長など、幅広い外部の有識者の評価や指導、情報提供を受けられる仕組みを確保している。</li> </ul>
<p><b>V-3 職員のモチベーションの維持</b></p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主任、責任保育士等、職位ごとの職務分責に関する概要は定められているものの、職員一人ひとりの経験や能力、習熟度等に応じた役割や目標(期待水準)が明文化されるまでには至っていないことが惜しまれる。</li> <li>・園長は、常に主任・責任保育士に現場の保育士の自主性を尊重し、任せるよう指導している。</li> <li>・職員会議等では保育全般や園運営に関する検討が行われているものの、広く職員から業務改善の提案を募ったり、意見を聴取するためのアンケートなどを実施するまでには至っていないことが惜しまれる。</li> </ul>

## 評価領域VI 経営管理

評価分類	評価の理由(コメント)
<p><b>VI-1 経営における社会的責任</b></p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全職員に対し社会人としての服装、立ち振る舞い等の初歩的な事柄から法令遵守や「保育とは何か」などにわたる事柄について、職員会議などで話題にし、率先垂範できるように教育している。</li> <li>・全職員を対象とした職員会議でも、民間移管後における法外扶助費の減額による収支状況や修繕案件等について、経営・運営情報を開示しながら、説明している。</li> <li>・経費削減の一環もあり、こまめな消灯等を実施している。</li> <li>・子どもたちの園内における薄着・裸足の目的は丈夫な身体づくりの観点もあるが、結果としてエアコンの省エネ(消費電力軽減)にもつながっている。また、隣地の通称「ジャングル山」の落ち葉を集め、園内に設置された畑の腐葉土にするなど、リサイクルと緑化の推進に役立てている。</li> <li>・リサイクル・省エネ・緑化等に関する工夫を園として行っているが、園の方針や目標に位置づけ、高めるまでには至っていないことが惜しまれる。</li> </ul>

## VI-2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等



- ・幹部会議や職員会議等において、常に園長は保育理念や基本方針、今年度のテーマ「挑戦(チャレンジ)」について、職員に理解・浸透を促し、意識化に努めている。
- ・保護者会は年 10 回程度開催され、必要に応じて園長や主任なども出席して園からの情報提供をはじめ、コミュニケーションを図っている。
- ・民営化後の園の状況や園内のレイアウト変更、備品の買い換え(更新)、修繕等の重要な意思決定にあたって、保護者会と継続的に意見交換している。
- ・全職員を対象とした職員会議では、民間移管後における法外扶助費の減額による収支状況や修繕案件など、経営・運営情報を開示しながら、説明している。
- ・園長は園内研修や職員会議等の場を通じ、主任や責任保育士に対して、保育理念等に基づき、保育技術に関わる指導の方向性を示すほか、スーパーバイズを行っている。
- ・また、「マニュアル」ファイルに、人材育成計画(主任保育士をはじめ、各責任者<3歳以上児・3歳未満児責任保育士、調理責任者>、保育士及び職員<パート含む>に区分した、主に指示・伝達系統の流れなどを示したもの)が作成されているものの、主任クラスをより計画的に育成していく具体的なプログラムを体系づけるまでに至っていないことが惜まれる。
- ・主任は保育士の日々子どもへの接し方や保育業務の観察を行うことにより、各保育士の状況把握に努めている。また、個々の保育士が交代で週間計画を立案しており、その内容を確認することにより主任保育士及び責任保育士は、各保育士の総合的な保育能力(資質・力量)を把握し、的確な助言・指導に努めている。
- ・例えば、「正しい読み聞かせ」や「正しい音程」、「オルガンを右手だけでも弾ける」等、保育士一人ひとりの能力に応じて目標を持たせ、達成できるよう指導・助言を行っている。

## VI-3 効率的な運営



- ・園長は旭区保育園長会や横浜市社会福祉協議会保育福祉部会等に参画しているので、ホットでタイムリーな国・市の情報を入手しやすい環境にある。
- ・毎月開催する幹部会議(園長、主任保育士、責任保育士2名と調理責任栄養士)等で、園運営に関する重要事項の協議を行っている。
- ・園長(理事長)として、中長期(3~5年程度)にわたる事業の方向性について、素案の構想は持っているものの、明文化されるまでには至っていないことが惜まれる。



- |  |   |
|--|---|
|  | <ul style="list-style-type: none"><li>・今後の保育需要の動向等を踏まえ、定員変更も視野に入れながらより良い保育の充実に向けた検討が理事会等でも行われている。例えば、大規模修繕によるトイレ改修や地域交流にも活用できる多目的会議スペースの確保等が検討されている。</li><li>・法人全体のスケールメリットを活かして、幹部職員を含めた職員の人事交流などにより、今後人材育成をより計画的に進めること検討している。</li></ul> |
|--|---|

# 家族アンケート取りまとめシート <鶴ヶ峰保育園>

## 結果の特徴

### 【調査対象】

鶴ヶ峰保育園の全利用（園児）62名に対する保護者55家族（世帯）にアンケートを実施した。

### 【調査方法】

事前に鶴ヶ峰保育園と評価機関の連名によるアンケート依頼文を連絡帳に挟み込んでもらい、その2～3日後にアンケートを同じ方法で手渡してもらった。アンケートは約3週間の回答期間（平成18年11月2日～11月20日）を設け、直接評価機関に返送してもらった。

### 【回答があった利用者及び回答者の概要】

利用者総数／	62名
調査対象総数／	55家族・保護者（世帯）
有効回答数／	27通
保護者（世帯）総数に対する回答者割合（％）／	49.1％

### 【回答があった利用者の内訳】

回答者のクラス	0歳児クラス	1歳児クラス	2歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス	無回答
	11.1%	14.8%	22.2%	18.5%	18.5%	11.1%	3.7%

(%)は小数第1位まで表示し、合計の小数第1位を四捨五入すると100%になる。)

### 【利用者家族アンケート全体のコメント】

- 今回の家族アンケートで回答いただいた保護者は49.1%だったが、その内「総合の満足度」では、「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせたプラスの回答が88.9%となり、全体として概ね満足していることがうかがわれた。
- 項目別では、「遊び」についてたずねた5項目のうち4項目が「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせたプラスの回答が95%を超えた。中でも「園の遊びにお子さんが満足しているか」では「満足」のみでも55.6%、「どちらかといえば満足」も合わせると96.3%、「遊びを通じた健康づくりへの取り組み」でも「満足」のみで51.9%、「どちらかといえば満足」を合わせると96.3%と満足度が高く、ソフトティーボール大会への参加や園庭に土をまき、裸足で駆け回れるようにするなどの取り組みが保護者に好評であることがうかがわれた。
- さらに、「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせたプラスの回答が85%を超え、満足度が高かった項目としては「体調への気配り」（92.6%）や「保護者からの相談事への対応」（88.8%）、「落ち着いて過ごせる雰囲気」（88.8%）、「お子さんが保育園生活を楽しんでいるか」（92.6%）、「あなたのお子さんが大切にされているか」（85.1%）、「ケガに関する説明や対応」（85.2%）などがあり、保護者が園に対して安心・信頼感を持っていることが推察される。個別の意見でも「2人目もこの保育園に入れたい」、「安全に預かって下さり感謝している」などの声が聴かれた。また、給食についての2項目でも「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせたプラスの回答がそれぞれ85.2%となった。
- 一方で、「不満や要望が気軽に言えるか」、「不満や要望への対応」では「不満」・「どちらかといえば不満」を合わせた回答がそれぞれ33.3%、22.2%となり、やや満足度の低い項目となった。個別の意見でも年に何回かはアンケートを行うなど、保護者がさらに気軽に要望や気持ちを言える方法を望む声が聴かれた。
- 園の保育目標や方針については、66.7%が「よく知っている」・「まあ知っている」と答え、そのうちの94.4%が「共感できる」・「まあ共感できる」と回答していた。「あまり共感できない」・「共感できない」などマイナスの回答はゼロであった。

# 家族アンケート取りまとめシート <鶴ヶ峰保育園>

## 結果の特徴

### 【調査対象】

鶴ヶ峰保育園の全利用（園児）62名に対する保護者55家族（世帯）にアンケートを実施した。

### 【調査方法】

事前に鶴ヶ峰保育園と評価機関の連名によるアンケート依頼文を連絡帳に挟み込んでもらい、その2～3日後にアンケートを同じ方法で手渡してもらった。アンケートは約3週間の回答期間（平成18年11月2日～11月20日）を設け、直接評価機関に返送してもらった。

### 【回答があった利用者及び回答者の概要】

利用者総数／	62名
調査対象総数／	55家族・保護者（世帯）
有効回答数／	27通
保護者（世帯）総数に対する回答者割合（％）／	49.1％

### 【回答があった利用者の内訳】

回答者のクラス	0歳児クラス	1歳児クラス	2歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス	無回答
	11.1%	14.8%	22.2%	18.5%	18.5%	11.1%	3.7%

(%)は小数第1位まで表示し、合計の小数第1位を四捨五入すると100%になる。)

### 【利用者家族アンケート全体のコメント】

- 今回の家族アンケートで回答いただいた保護者は49.1%だったが、その内「総合の満足度」では、「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせたプラスの回答が88.9%となり、全体として概ね満足していることがうかがわれた。
- 項目別では、「遊び」についてたずねた5項目のうち4項目が「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせたプラスの回答が95%を超えた。中でも「園の遊びにお子さんが満足しているか」では「満足」のみでも55.6%、「どちらかといえば満足」も合わせると96.3%、「遊びを通じた健康づくりへの取り組み」でも「満足」のみで51.9%、「どちらかといえば満足」を合わせると96.3%と満足度が高く、ソフトティーボール大会への参加や園庭に土をまき、裸足で駆け回れるようにするなどの取り組みが保護者に好評であることがうかがわれた。
- さらに、「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせたプラスの回答が85%を超え、満足度が高かった項目としては「体調への気配り」(92.6%)や「保護者からの相談事への対応」(88.8%)、「落ち着いて過ごせる雰囲気」(88.8%)、「お子さんが保育園生活を楽しんでいるか」(92.6%)、「あなたのお子さんが大切にされているか」(85.1%)、「ケガに関する説明や対応」(85.2%)などがあり、保護者が園に対して安心・信頼感を持っていることが推察される。個別の意見でも「2人目もこの保育園に入れたい」、「安全に預かって下さり感謝している」などの声が聴かれた。また、給食についての2項目でも「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせたプラスの回答がそれぞれ85.2%となった。
- 一方で、「不満や要望が気軽に言えるか」、「不満や要望への対応」では「不満」・「どちらかといえば不満」を合わせた回答がそれぞれ33.3%、22.2%となり、やや満足度の低い項目となった。個別の意見でも年に何回かはアンケートを行うなど、保護者がさらに気軽に要望や気持ちを言える方法を望む声が聴かれた。
- 園の保育目標や方針については、66.7%が「よく知っている」・「まあ知っている」と答え、そのうちの94.4%が「共感できる」・「まあ共感できる」と回答していた。「あまり共感できない」・「共感できない」などマイナスの回答はゼロであった。

# 利用者本人調査取りまとめシート（鶴ヶ峰保育園）

## 結果の特徴

**調査対象：**園児 61 人のうち、園側に予めリストアップいただいた 10 人（園児の 16.4%）を調査対象とした。〔1 歳児 0 人、2 歳児 1 人、3 歳児 1 人、4 歳児 2 人、5 歳児 2 人、6 歳児 4 人〕

項目	回答者年齢	人数	内 訳	園全体の人数
保 育 観 察	0～2 歳	1 人	男児 1 人	21 人
	3～4 歳	3 人	男児 1 人・女児 2 人	31 人
本人聴き取り調査	5～6 歳	6 人	男児 5 人・女児 1 人	9 人

### 【調査方法】

#### 《保 育 観 察》

調査員 2 人が 0～4 歳の 4 人を保育の現場で、施設側から提供された利用者情報シートを参考にしながら、遊び・食事・排泄・午睡等の保育状況を観察した。

#### 《本人聴き取り調査》

5～6 歳の 6 人を対象に、食事・遊び・排泄等について聴き取り調査を行った。食事については給食を共にしながら、また遊びなどについても活動中の子どもたちの脇で聴き取りを行うなど、より自然な形での意見聴取に配慮した。

### 【保育観察の結果】

#### 《全体のコメント》

- 調査日は冬季(12月)であったが、子どもたちは園庭では活発に走り回ったり、砂遊びなどに夢中になり、室内では大人には少し肌寒く感じられる環境の中でも、終日裸足・薄着で元気いっぱい過ごしていた。音楽に合わせて歌ったり、とんだり跳ねたり動物の模倣をしたり、あるいは絵本・紙芝居を聞いて反応したりと、「言葉」「リズム」「動き」の面白さを満喫し、1 日を思い思い存分に楽しんでいた。
- 子どもたちはそれぞれのペースで過ごしているが、保育士はせかしたりせずに穏やかな口調と態度で接し、子どもの気持ちを大切にしていた。保育士同士も相互に連携し、子ども一人ひとりの気持ちを汲み取りながら言葉を添えて、子ども同士のコミュニケーションを大切に援助している様子うかがえた。
- 子どもたちは時にケンカもしていたが、保育士は叱ったりせずに穏やかに接し、子どもの成長・発達に応じた対応を心がけていた。1 歳児に対しては膝に乗せながら優しく説得し、4・5 歳児に対しては、両者の言い分を聴き、一方に譲るように働きかけ、そのフォローとして譲った子どもには別のお手伝いに誘い、その子どもも気持ちよく応じているなどの様子も見受けられた。

**<遊び>** 園庭遊びは3~5歳児の異年齢交流、室内遊びでも4・5歳児クラスの交流保育が自然に行われていた。保育士による手遊びや絵本の読み聞かせなどにじっと聞き入り、時に反応し、「動物探し」、「創作遊び」などに夢中になり、保育士の歌に合わせて動物の鳴き声を真似したり、目を輝かせて思い思いに身体をゆすったり飛び跳ねたりして、身体全体で喜び(楽しさ)を表現していた。園庭遊びでは、3~5歳児の子どもたちは運動会など行事を経てさまざまな経験を積み、リレー競争では友だち同士の協力や勝敗へのこだわりなどが芽生えている様子も見られた。子どもたちは一日のびのびと楽しそうに過ごしていた。

**<食事>** 給食の時間をみんな楽しみにしており、友だちや保育士との会話を楽しみながら、多くの子どもがおかわりをしていた。食べるペースが遅い子どもに保育士が無理強い様子も見られなかった。  
お当番さんは調理室にワゴンを運び、配膳準備を手伝うことから「いただきますの歌」まで、誇らしげな気持ちで役割を担っていた。

**<排泄>** 排泄については、遊びの変わり目に保育士が声をかけてパンツを脱ぐのを手伝ったり、失敗に気づくとさっと着替えを用意してはさり気なく交換していた。トイレへのドアには安全のため鍵がかかっており、子どもたちは「おしっこ行きます」と保育士に声をかけてトイレを済ませている。また、友だちがトイレに行くのを見てくっついて行き、用を足す姿も見られ、3~5歳児では自分できれいに手洗いもできていた。

**<午睡>** 遊びの活動量が多いことによるものか午睡時間になると、もくもくとパジャマに着替え、準備して布団に入り、すぐに寝息を立てている子どもが多かった。しばらくすると各クラスはシンと静まり返っていたが、寝つきの悪い子どもは保育士がお尻や背中をトントンしながら歌を歌ったり、本を読み聞かせたりするうちに自然と気持ち良さそうに入眠していた。

## **【本人聴き取り調査の結果】**

### **《全体のコメント》**

- 広々した園庭では自由に走り回ったり、サッカーをするだけでなく、ソフトティーボール(ゴムボールをティーの上に置いて、バッティングする幼児向けの野球)などもでき、子どもたちはソフトティーボール大会で優勝したことを誇らしげに話していた。室内遊びでも子どもたちの手の届く棚に、人気のブロックやパズル、すごろく等があり、回答者全員が「保育園での遊びは楽しい！」と生き生きと答えていた。
- 食事については、どの子どもも楽しみにしており、おかわりも自由できると答えていたが、実際に多くの子どもが残すことなく、おかわりをしている様子も見受けられた。聴き取り中も、子どもたちは片付けや手洗い、歯磨きなどをきちんと行い、役割を与えられたお当番さんは、配膳の準備や「いただきます」の挨拶の声掛けなどを行っていた。
- 着替えやおもらしの質問では、回答者のほとんどが「先生がやさしくしてくれる」と答えていたが、同時にできるだけ自分のことは自分で行い、できるところを見せたいという気持ちが、子どもたちから感じられた。

## 〔質問項目別の特徴〕

- <遊び>** 全員の子どもが「園での遊びは楽しい！」と答えている。好きな遊びの質問では、たくさんの遊び(ブロックや写し絵、サッカー、粘土工作、ドッチボール、ソフトティーボールなど)が挙げられ、午睡のない日が楽しみなほど「楽しいこと」がいっぱいで、毎日が充実している様子うかがわれた。調査日も午睡のない日で、午後は広々した園庭でとりわけサッカーが人気の遊びのようだったが、室内でもアイロンビーズや粘土工作、ブロックなど、たくさんの遊びを楽しんでいる様子が見られた。
- <食事>** 食事も全員の子どもが「楽しみ」と答えており、「カレーライス」や「ラーメン」には調査対象以外の周囲の子どもも賛成の声を上げていた。食べられない時は「残すこともできる」とほとんどの子どもが答えており、嫌いなものを無理やり食べさせられたり、それが心理的負担になっている様子などは全くうかがわれなかった。むしろ、野菜など苦手なものでも我慢して食べ、できれば少しずつでも「何回もおかわりをしたい」という気持ちが強いようであった。
- <排泄>** 「行きたい時にトイレに行っていますか」の質問には、全員の子どもが「先生に断って行く」と答え、実際にその光景が見受けられた。「ウンチ」や「おもらし」のことについては、周囲に聞こえないよう調査員が注意を払ってたずねた項目であったが、ほとんどの子どもがあっけらかんと「おもらしたことはない」と答えたが、一部「排泄の自立」について現在努力中の子どももいる様子うかがわれた。
- <清潔・着替え>** 「園では熱がでたことはない」と答える子どもを除いて、回答した子ども全員が具合(体調)の悪い時は園長室(事務室)で休み、保育士に付き添ってもらうことを示唆している。また、ケガをした時などには「やさしくしてくれる」と全員が答えている。先生はやさしく、着替えや清潔を保つことなどを手伝ってくれるが、子どもたちはできることは自分でやりたい、またできるところを見せたいという自立心の芽生えの一端もうかがえた。
- <権利>** ケンカをした時には、保育士がちゃんと両者の話し(言い分)を聴いてくれている様子うかがわれ、調査の合間にもその様子が見受けられた。5・6歳児の場合、一日おきの午睡の日は、子どもたちも眠るように努力はするが、眠れなければ布団でゴロゴロしたり、絵本を静かに読んだりしているようである。午睡の日は、“寝なくて良い日”の自由遊びの楽しみのための“我慢の日”として子どもたちに受け入れられている様子うかがえた。
- <職員対応>** どの保育士も子どもたちに優しい態度で接し、子どもたちも「優しくしてもらっている」と感じていることは、聴き取りからも調査の合間のやり取りからも、自然に感じ取ることができた。園長先生との関わりについて、子どもたちからは共通して、月に一度のお誕生日会における“手品師”としての人気(姿)が定着(浸透)していた。

## 事業者からの意見(コメント)

評価機関から、評価結果のフィードバックを受けて、課題について箇条書きにしたい。

1. 園と保護者との関わりが希薄であるとの指摘がなされたが、公立園から民間園への移管のときの保護者会との約束事項があり、現在もまだ裁判中であるので、出来る限り問題を起こさないために保護者との関わりは保護者会会長を窓口としている。  
※ 約束事項…園長と保護者会会長との話し合いがすべてである。
2. 地域社会との関わりについても、上記と同じ理由が要因である。
3. 中長期的人材育成の明文化についてであるが、法人の理事長として、保育園の園長として十分そのことは考慮しながら、人事を行っている。  
※ 理事会においては、明文化し既に理事長代行を置いているし、また鶴ヶ峰保育園長についても主任保育士を次期園長として育成している。さらに、各保育士、栄養士、調理師においても主任保育士補佐、リーダー、チーフなどを置き、人材育成を図っている。
4. 家族アンケート調査において  
49.1%が回答ということで、例えば保護者会アンケートなどを行っても定員63名中16件のみの回答であったり、新役員選出のためにアンケートをとっても、5件のみの回答ということを見ると、保育園側としてはこの49.1%の回答に、驚きを感じている次第である。
5. 第三者評価は園にとっても、職員にとっても今後の保育の実施にとって、大変参考になったことを感謝をもって記したい。